

首相、官民挙げ団造り支援

ODA拠出、債務解消

ミャンマーのセイ、大統領と会談

【ネピードー共同】安倍晋三首相は26日午前(日本時間同日午後)、ミャンマーのティン・セイ・セイン大統領と首都ネピードーで会談し、ミャンマーの経済発展や民主化に向け、インフラや法整備などの国造りを官民挙げて支援する方針を伝えた。910億円の政府開発援助(ODA)拠出や、約2千億円の対日債務解消も伝達し、大統領は歓迎の意向を表明した。両首脳は「永続的な友好協力関係を築く」との共同声明を発表した。首相は支援加速により現地での日本企業の進出機会を増やす、ミャンマーの経済発展を自らが掲げる日本経済の成長戦略に取り込みたい考えだ。

借款510億円と無償資金協力400億円。両首脳立ち会いの下、交換公文の署名式が行われた。大統領は理解を示した。中国をめぐつても意見交換した。共同声明では、大統領



共同記者発表する安倍首相(左)とミャンマーのティン・セイ・セイン大統領=26日、ネピードー(共同)

局間の協力を促進することも盛り込んだ。ミャンマーに影響力を持つ中国人をけん制する狙いもある。

日本政府はミャンマーの政情不安定化を背景に、1987年以来、円借款を凍結したが、同国民の

主化の動きを受け、今年3月に円借款の再開を正式発表していた。

【ネピードー共同】日本首相として36年ぶりにミャンマーを訪問した安倍晋三首相は、同国に向けたインフラ整備を中心に官民挙げて国

の政策実績から、2011年1月の民政移管からわずか2年。改革は総じて順調だったばかりで、民主化を定めながら、同国民の意識が高まっている。小沢氏の事務所は

「陸山会」が所有する1室(117平方メートル)。政治活動の場は議員会館に移したとみられ、小沢氏の事務所は

「秋に公開される陸山会の政治資金収支報告書で報告する」としている。

取扱いを支援する姿勢を鮮明にした。ただ、2011年1月の民政移管からわずか2年。改革は総じて順調だったばかりで、民主化を定めながら、同国民の意識が高まっている。小沢氏の事務所は

「殲の森」(2007年、審査員特別大賞)以来、6年ぶりに授賞式で日本映画が受賞部門で日本映画が受賞

したのは河瀬直美監督の「殲の森」(2007年、審査員特別大賞)以来、6年ぶりに授賞式で日本映画が受賞

したのは河瀬直美監督の「殲の森」(2007年、審査員特別大賞)以来、6年ぶりに授賞式で日本映画が受賞

飯島氏訪朝の概要判明

拉致の期限付き協議を主張

【共同】今月中旬に訪朝した飯島勲内閣官房参与と北朝鮮側要人の会談概要が24日、判明した。飯島氏は拉致問題解決に向けた協議を「期限を設けて進めるべきだ」と主張。

北朝鮮側は、日本独自の経済制裁解除を求める決定向けた協議を「期限

同時に、日本国内で北

だつた李氏は「主権への深刻な侵害だ」と非難していた。

拉致に関して、北朝鮮側は「日本の意向を金正恩

と主張。

北朝鮮側は、日本独自の経済制裁解除を求める決定向けた協議を「期限

同時に、日本国内で北

だつた李氏は「主権への深刻な侵害だ」と非難していた。

昨年、聖市(市長)のワイン会で「エキスボディー」で優秀賞に輝き、伯父のワインを発売する。銘柄は「マエストラーレ・インテグラ」で、商品の新規開拓で販路を拓く。清水組合(SANJO)が来年から新商品のワインを発売する。銘柄は「マエストラーレ・インテグラ」で、商品の新規開拓で販路を拓く。

SANJO白慢の新商品 『マエストラーレ・インテグラス』

ブランド確立に向け奮闘



「私はこの経験を、ほとんど話したことがない」——副市長を3期も務めた外科医、森和弘(83、二世)はそう前置きすると、静かに、しかし臆することなく語り始めた。「スザノのカズヒロ・モリ」といえば、ブラジル社会に積極的に貢献してきた有名な二世といふ印象が強い——だが、彼がそれを志した裏には悲しい原体験があり、これは、あまり知られていない。終戦翌年の7月10日夜7時頃、まだ中学生だった和弘をあまりに悲しい事件が襲った。『二人の父』を一度に撃ち殺されたのだ。

「戦争終われば日本に帰る」

「お父さんが勝ち負け抗争の被害者では?」と記者の質問に、和弘は驚いたような表情を浮かべた。政治家としてのカズヒロ・モリはほとんどの勝利で終わる。そうだから取材もボヤで始まつた。

「パパは戦争中、『この戦争はすぐに日本が勝利で終わる』と必ず言つて、だから家族で引上げるから、ブラジル学校に行なつたら家族で引上げるから、日本語をしゃべらない。だから、日本語をしゃべらぬまま、渡り後もピラッキ有数の立派なバールを受け、公務員までしていき、家庭内では日本語で話す。」

「ゴイチは町では

30センチほどの空間を示した。

「すぐに戦争は日本の勝利で終わる。そうした

日本語に切り替えたが、

またたく間に困った様子もな

く普通に答え続けた。

『ゴイチ(父)はパト

リオタ(愛國者)だつ

た』と断言する。

当時の日本移民の大半がそうで

あり、愛國者の多くは勝

ち組だつたはずだ。

ゴイチは日本で教育を

受け、公務員までしてい

き、家庭内では日本語で

話す。日本語で勉強し

を続け、大学に行きたい

と考えていた。だから

『中学に行かせてく

れ』と棒に振つた。

『その頃から私は勉強

を続けた。大学に行かず、

一年間を棒に振つた。

『その頃から私は勉強</

